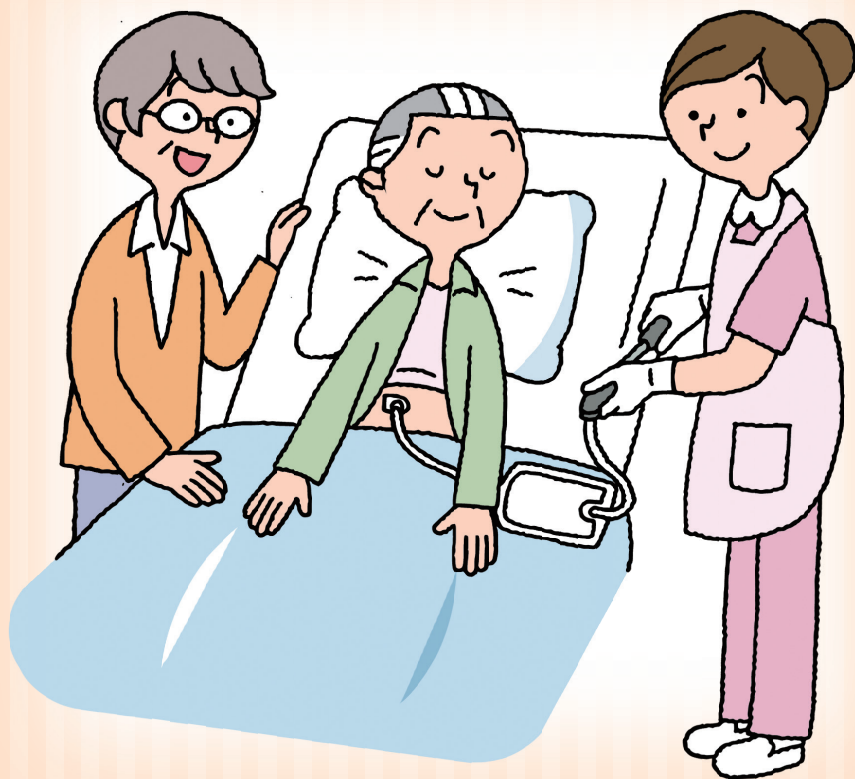


旧規格対応

イノソリッド<sup>®</sup> 配合経腸用半固形剤  
ラコール<sup>®</sup> NF 配合経腸用半固形剤 を使用される患者さんへ

# はじめての半固形剤 使用法の手びき

監修：医療法人 尚徳会 ヨナハ丘の上病院 名誉院長 東口 高志



Otsuka 株式会社大塚製薬工場

# 半固形剤が使用される患者さんとは

- 液体の栄養剤でむせたり、せき込む



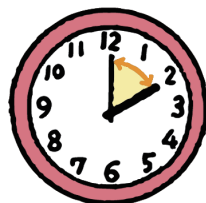
- 液体の栄養剤で逆流や下痢を繰り返す



- 胃ろうから栄養剤がもれる



- 注入時間を短くしたい



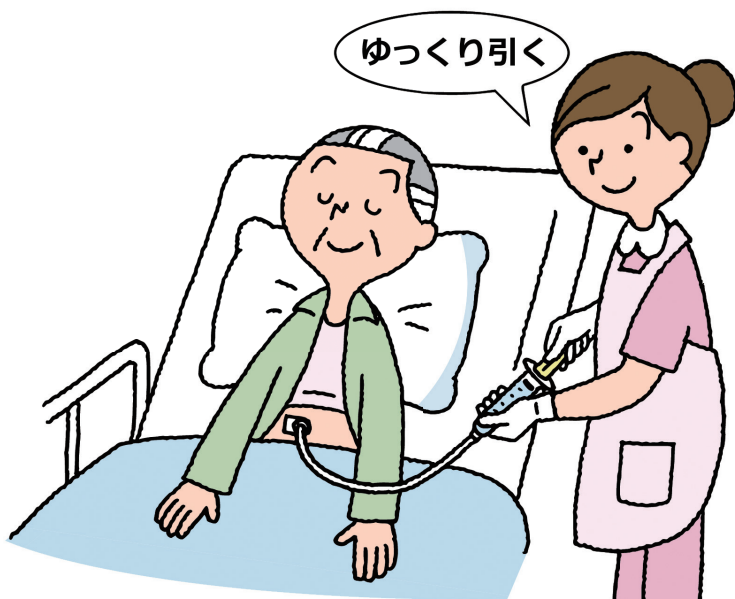
## 使用前の準備

栄養剤の逆流や嘔吐を防ぐため

使用前に胃の中の空気抜き(減圧)をします。

### ● 減圧の方法

胃ろうの栓をあけ、カテーテルチップ  
シリンジ等で胃の空気を抜きます。  
あわせて、胃に内容物が残っていないか確認します。

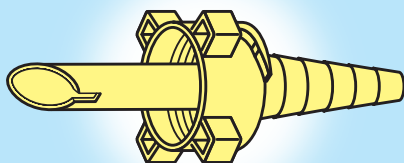


# 経腸用半固形剤を胃ろうから注入する

次のいずれかの器具を使用します。

経腸用半固形剤専用アダプタ  
(別売り)

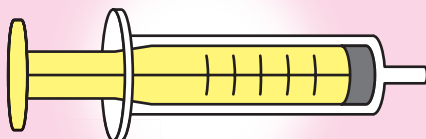
①



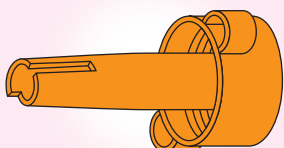
6ページへ

カテーテルチップシリンジ(別売り)

②



10ページへ



半固形剤吸引用コネクタ(別売り)を使用するとより衛生的に注入できます。

12ページへ

さんの  
注入方法は

です。

# 方法

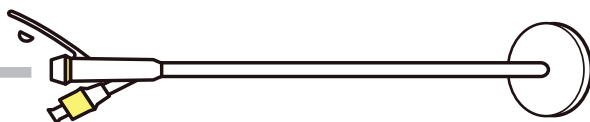
注入方法は、二次元コードより  
動画でご確認いただけます。



チェック



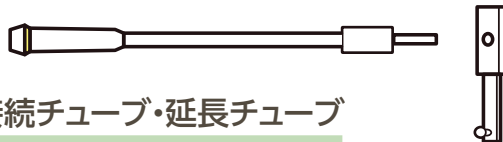
チューブ型胃ろう



チェック



ボタン型胃ろう



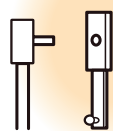
接続チューブ・延長チューブ

参考

半固形剤の注入には、ストレート型のチューブが適しています。



ストレート型

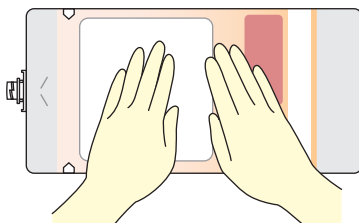


L字型

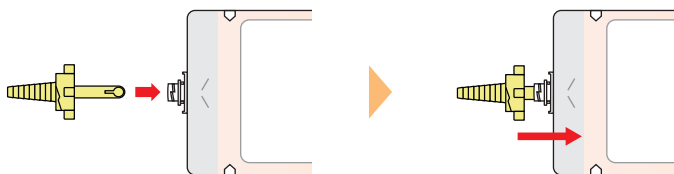
# 1

## 専用アダプタ (別売り) を用いる

- 1 使用前に両手で交互に10回程度もんでください。この操作をしっかりと行わないと、半固形剤が注入しにくいことがあります。



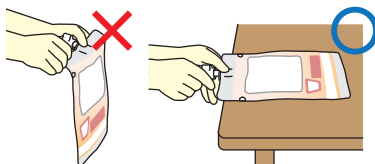
- 2 バッグや口栓が操作台と平行になるように置き、口栓に専用アダプタをまっすぐに差し込みます。(バッグの口栓に穴をあけます)



### 注意

※専用アダプタを再使用すると、アダプタの先端が摩耗・変形して開通しないおそれや先端が欠けるおそれがあります。

※口栓を持ってバッグが折れ曲った状態でアダプタを接続すると、アダプタの先端でバッグ内側を傷つけるおそれがあります。



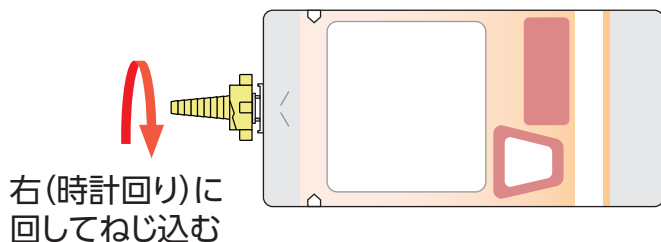
\*アダプタは再使用しないでください。

# 方法

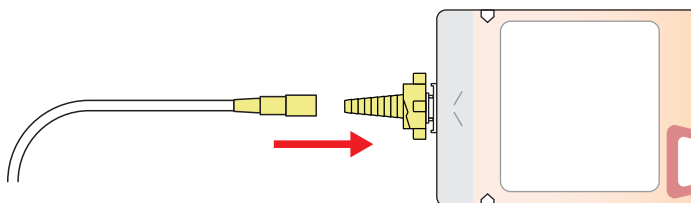
注入方法は、二次元コードより  
動画でご確認いただけます。



## 3 専用アダプタをしっかりとねじ込みます。



## 4 専用アダプタとチューブを接続します。

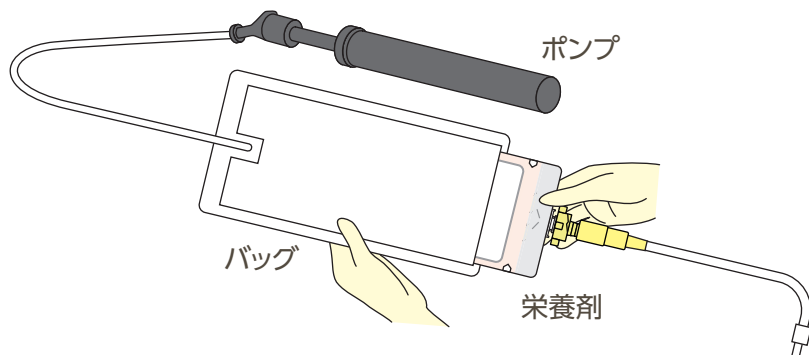


加圧バッグ(別売り)を利用すると、  
より簡単に注入することができます。  
(詳しくは、次のページをご覧ください)

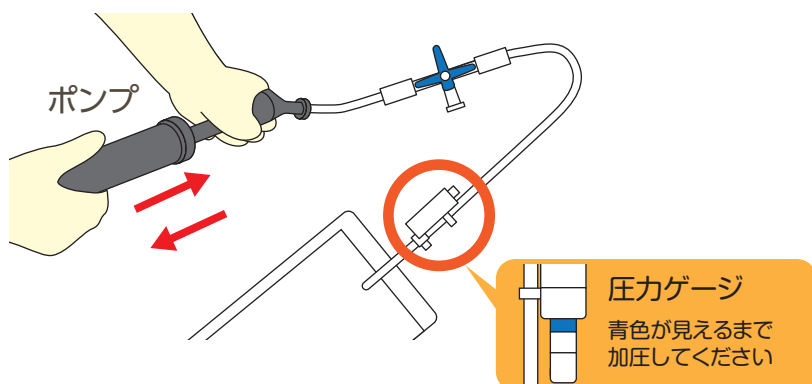
# 1

## 専用アダプタ (別売り) を用いる

### 5 半固形剤を加圧バッグに入れます。



### 6 手動ポンプを押し加圧バッグを膨らませて、半固形剤を注入します。



※加圧バッグの使用方法等については、製品の取扱い説明書をご覧ください。

※加圧バッグ使用后、容器内に半固形剤が残った場合、「半固形剤まき絞り器 (別売り)」をご利用いただけます。



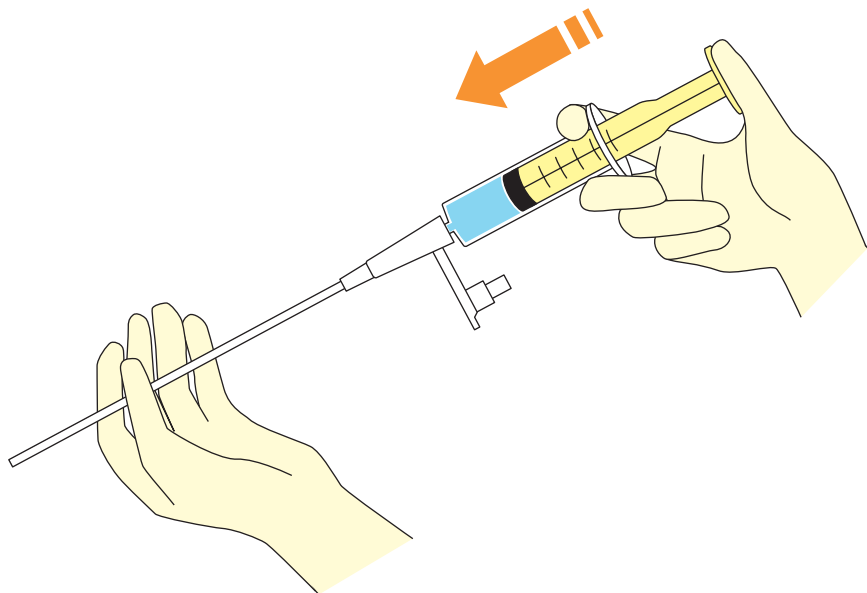
# 方法

注入方法は、二次元コードより  
動画でご確認いただけます。



## 7 最後にチューブをフラッシング※してください。

※フラッシング:少量の水でチューブを洗い流すこと。



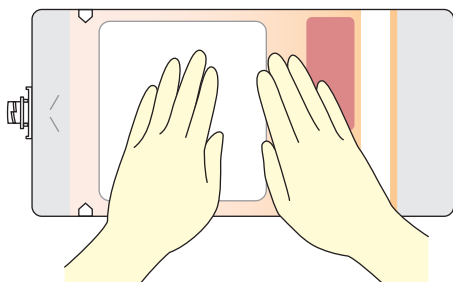
### 参考

ジェイフィード®ペグロック  
延長チューブならロック接続が  
可能です。

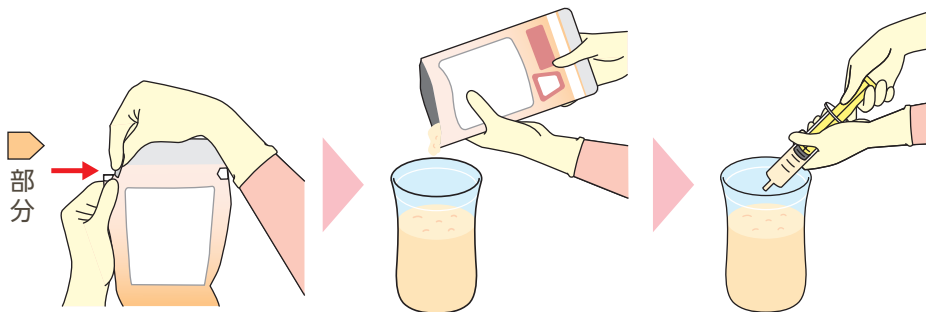


## ② カテーテルチップシリンジ(別売り)

- 1 使用前に両手で交互に10回程度もんでください。この操作をしっかり行わないと、半固形剤が注入しにくいことがあります。



- 2 部分からバッグを開封し、半固形剤を清潔な容器に移し、シリンジに吸い取ってください。



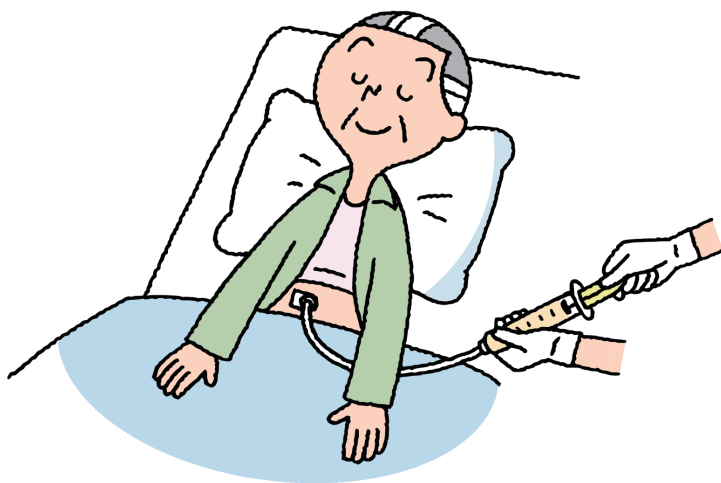
## を用いる方法

注入方法は、二次元コードより  
動画でご確認いただけます。



**3** シリンジをチューブに接続し、注入してください。

**注意:** 注入しにくい場合は20～30mLのシリンジ  
をご使用ください。



**4** 最後にチューブをフラッシング※してください。

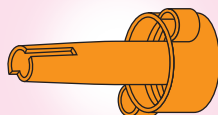
※フラッシング：少量の水でチューブを洗い流すこと。

## 2

## カテーテルチップシリンジ(別売り)

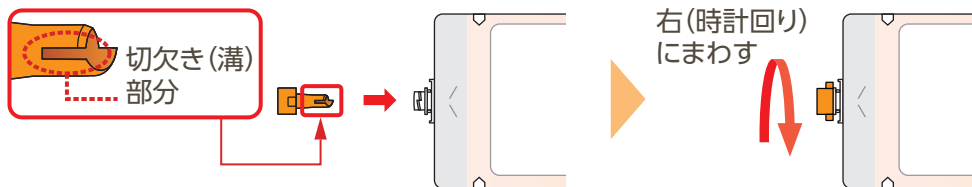
半固形剤吸引用コネクタ(別売り)を利用するとより衛生的に注入することができます。

半固形剤吸引用  
コネクタ(別売り)



1 使用前に両手で交互に10回程度もんでください。

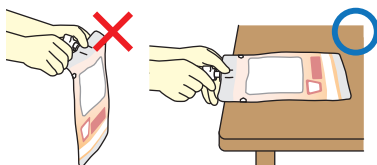
2 バッグや口栓が操作台と平行になるように置き、バッグの口栓に吸引用コネクタの切欠き部分を上にしてしっかりねじ込みます。(最後までねじ込まないと開通しないことがあります。)



### 注意

※吸引用コネクタを再使用すると、コネクタの先端が摩耗・変形して開通しないおそれや先端が欠けるおそれがあります。

※口栓を持ってバッグが折れ曲がった状態でコネクタを接続すると、コネクタの先端でバッグ内側を傷つけるおそれがあります。



# を用いる方法

注入方法は、二次元コードより  
動画でご確認いただけます。

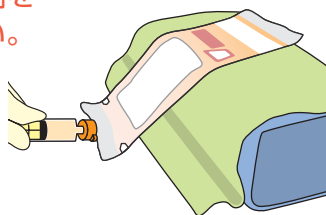


**3** 吸引用コネクタにシリンジを装着し、半固形剤を吸い取ります。

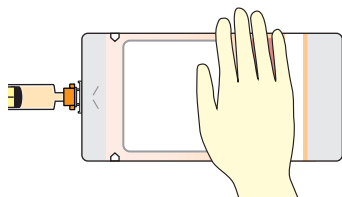
## 《吸い取りやすくするコツ》

※以下のいずれかの方法で、半固形剤を口栓部に集めて吸い取ってください。

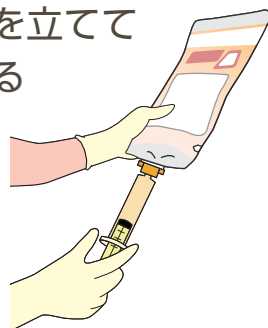
- 枕やタオル等を用いてバッグを傾けて吸い取る



- バッグを手で押して口栓部に集めて吸い取る



- バッグを立てて吸い取る



**4** シリンジをチューブに接続して注入してください。



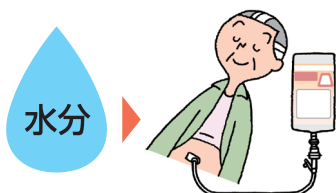
**5** 最後にチューブをフラッシング※してください。

※フラッシング：少量の水でチューブを洗い流すこと。

# 水分管理について

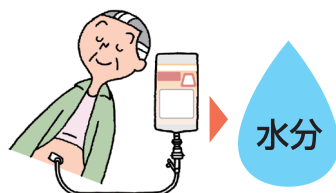
水の追加の必要性や必要量は、主治医の指示に従ってください。

- 水を追加する場合は下記のいずれかのタイミングをおすすめします。ただし、追加前には、胃内容物の残存を確認してください。（胃内容物の残存の確認は、P3「減圧の方法」をご参照ください。）



半固形剤 注入  
30分前

又は

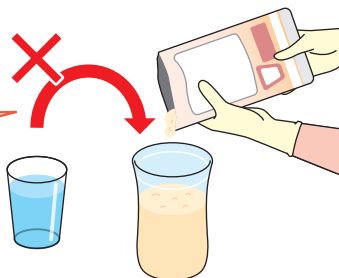


半固形剤 注入  
2時間後

**注意**

半固形剤に水を混ぜないでください。  
粘度が下がります。

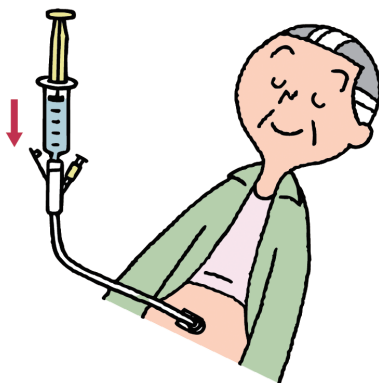
水を混ぜない



# 塩分管理について

塩分(食塩)追加の必要性や必要量は、主治医の指示に従ってください。

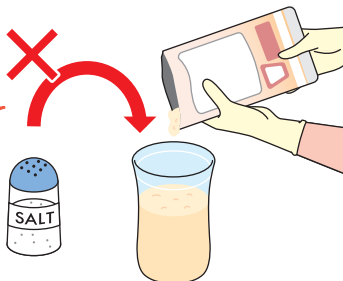
- 食塩は、半固形剤注入後の追加水やフラッシングに使用する水等に、溶かして注入することをおすすめします。



**注意**

半固形剤に食塩を混ぜないでください。  
性状が変わります。

食塩を混ぜない

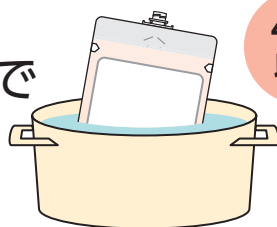


## 注意！

1 半固形剤が次のような状態のときは使用しないでください。

- 容器の膨れや汚れがある
- 漏れた跡がある
- 容器をもんだ時に漏れる
- 異臭がする
- 内容物が変色している

2 半固形剤を温める時は、未開封のまま40℃以下で湯せんしてください。（高温で湯せんすると性状が変わります。）



40℃  
以下

3 開封後はできるだけ早めに使いきってください。